

1. 現況整理・社会的条件の整理

1. 現況整理・社会的条件の整理

(1) 旗宿地区・白河関の森公園の現況整理

1) 地元への帰郷を促進する魅力の創出（人口）

日本の人口は、平成20年(2008)年を境に減少している中、白河市の総人口は平成12年(2000)年の66,048人をピークに減少に転じており、令和4(2022)年2月1日では58,589人となっている。旗宿地区の総人口も同様の減少傾向にあり、2005年の段階で556人であったが、令和4(2022)年2月1日では397人まで減少している。15～24歳では、他の世代に比べて転出数が転入数を大きく上回っている。進学や就職を機に本市を離れる若者が多い。

旗宿地区のまちづくりや関の森公園のリニューアルでは、自然の豊かさを活用した新たなライフスタイル、自然の中での生活、安心して子育てができ、首都圏に行かなくても就労できるような、次の時代のまちづくりについて検討することが求められている。

【参考・引用】 白河市人口ビジョン（令和2年3月）
第2期白河みらい総合戦略（令和2年3月）

2) 雇用を促す取り組みの必要性（産業）

白河市の産業については、全体の底上げによる安定した魅力ある「しごと」の確保を最優先課題として取り組み、人材の流出を抑制するとともに、地域に愛着と誇りを持った人材の育成と市民主体のまちづくりを進めている。

○しごとの創生

地元企業の経営基盤強化や生産性の向上、企業誘致の推進等により、魅力ある雇用の創出をする。

○ひとの創生

子供達が市の持つ自然や歴史、伝統・文化、食などの魅力を学び、地域とのかかわりを深めることで、郷土への愛着や誇りを持った人材の育成や若者の定着を進める。

○まちの創生

既存ストック（これまでに整備された基盤施設、公共施設等）の有効活用等により、SDGsを取り入れた持続的で住みやすいまちづくりを進める。

これらを踏まえ、関の森公園では、白河でのしごと・雇用創出だけでなく、白河の歴史・伝統・文化・食等の郷土への愛着や誇りを持つ人材を育成し、既存のストックを活用したSDGsを取り入れた持続的で住みやすいまちづくりを行うことが求められる。

【参考・引用】 白河市みらい総合戦略（令和2年3月）

3) 交流機能の更なる強化（都市計画）

①都市（まち）づくりの課題

白河市では都市計画マスタープランの中で、都市（まち）づくりの課題を取り上げている。

- ・ふるさとを意識した都市づくり
- ・自然と共生した都市づくり
- ・白河らしい都市づくり
- ・美しい白河の景観づくり
- ・人を大切にした都市づくり

②旗宿地区・関の森公園の都市計画上の位置づけ

旗宿地区は、将来都市構造図の中の自然ふれあいゾーンに位置しており、ここでは、市の周辺を囲む森林や、水源の確保、多様な生物の生息のために必要な環境があり、森林レクリエーションや森林産業との連携を図りながら保全・活用に努めるよう求められている。

また、旗宿地区は、社川流域の中の「ほっとポイント」として位置づけられている。「ほっとポイント」は、美しく心安らぐ田園風景や水と緑の豊かな自然環境など、ゆったりとした暮らしの中での利便性を提供し、コミュニティの中心となるところであり、関の森公園も地域のコミュニティを形成する中心となる場として計画することが求められている。

さらに、旗宿地区は社川の源流部に位置し国指定史跡「白河関跡」が所在している。関跡の前を通る旧関街道は、現在（主）伊王野・白河線となり、栃木県境へ通じる骨格的な道路となっている。また、沿道の集落には現在も宿場的景観が残されていることから、歴史的遺産を活かした地域づくりを行うと共に、白河関跡や白河関の森公園等を活用した、歴史・人々との交流拠点としての機能強化を進めることが求められている。

③緑の保全と身近な緑づくり

身近な公園・緑地については、「自分たちの公園は自分たちが管理する」という意識を高めながら、市民参加による公園づくりや、地域と連携した管理体制づくりを進めていくとしている。白河関の森公園も、地元の人を中心に市民が行政と連携し、共同で管理するような新たな仕組みが望まれている。

④田園と森林の保全・活用

森林や里山については、その良好な環境を守りながら、自然とのふれあいを通じて、市民が自然の大切さや生態系を理解、学習するための森林公園施設を整備するとしており、白河関の森公園も自然を通じた学びの場、遊びの場としての整備が求められている。

白河市は都市の将来像として「交流創造都市 ふるさと白河」をあげており、土地との交流を創造してきた都市である。また、当該地区は「自然ふれあいゾーン」に位置し、「ほっとポイント」

としても指定されていることから、これまでの歴史を踏まえた、人と人との交流、世代間の交流、コミュニティの交流、都市と田園の交流、ハンディキャップを越えた交流、モノの交流、都市の交流など、新たな交流創造に寄与する計画が求められる。

⑤自然を生かした取り組みの必要性

白河市の土地利用方針として、各地域の「ほっとポイント」（コミュニティ交流拠点）では、地域活動の核となる交流施設や憩いと安らぎの場などを整備し、快適な環境づくりを行うとしている。旗宿地区では、都市と農村・山村との交流を促進するため、農林部局との調整の下、農家レストラン、農家民宿などの田舎や自然が体験できる仕組みを増やすとしており、旗宿地区の良さを活用した「グリーンツーリズム」などの機能が求められる。

【参考・引用】 平成 20 年度 白河市都市計画マスタープラン（平成 21 年 3 月）

4) 周辺施設の動向

福島県県南建設事務所は、地域づくりの方針として、「南湖公園」「小峰城跡」と並ぶ歴史的史跡である「白河関跡」の周辺環境を整備し、「歴史のまち 白河」の向上を図るため、「白河関跡」と「白河関の森公園」を結ぶ歩道の整備を行った。（計画期間 H25～H27）

5) 歴史的資産等を活用した観光動線の整備（公共交通等）

白河市は、都心までを約1時間30分で結ぶ東北新幹線をはじめ、東北自動車道、車で30分の距離にある福島空港などの高速交通体系に恵まれ、さらには J R 東北本線、幹線道路である国道 4 号、国道 289 号及び国道 294 号などにより、首都圏とのアクセスや広域的な交通の利便性に富んでいる。

一方、旗宿地区への公共交通はバスのみであり、平日に 3 本、休日に 2 本しか運行しておらず、アクセス性の面においては、整備しきれていない状況にある。そのため、ほとんどが自家用車による移動のみとなっている状況である。

これらを踏まえ、周辺の観光地との動線を考慮した観光体験、一日公園で楽しめる体験、自然と共生し宿泊を伴う体験での活用などを検討することが求められている。

6) 滞在型観光客の増加への取り組み

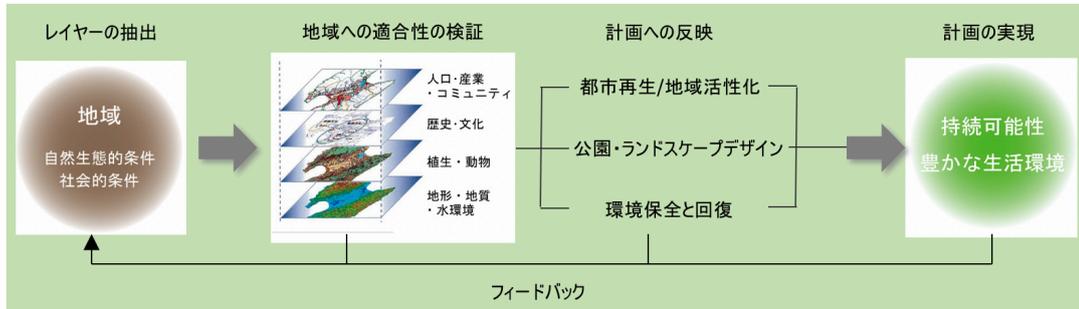
白河市観光振興計画では、「ゆったり巡る白河散歩～上質に触れて本物に出会えるまち～」をコンセプトに観光振興に取り組んでいる。そのような中で、福島県南地域の旅行者の旅行形態はほとんどの来訪者が「日帰り」であり、白河市への来訪者も同様の傾向があると記されている。

しかしながら、白河関の森公園については、周辺の観光地と連携することで市内への回遊を促進できるとともに、1日滞在できる機能や数日楽しむことが出来る宿泊型の体験など新たな観光地としての可能性を秘めている。

(2) 自然環境等

エコロジカルプランニングにより、旗宿地区・白河関の森公園の自然環境について整理する。

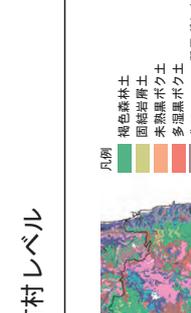
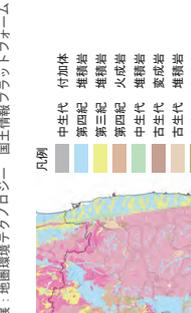
エコロジカルプランニング:地域を様々な角度から診断し、持続可能で豊かな生活環境を創出するための最適解を導き出す手法。



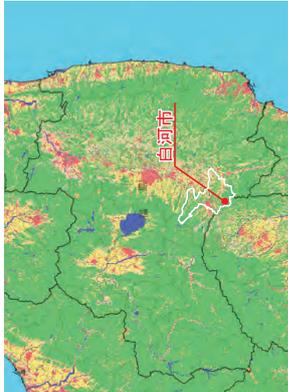
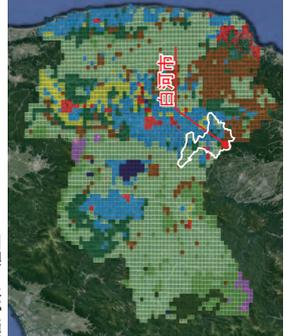
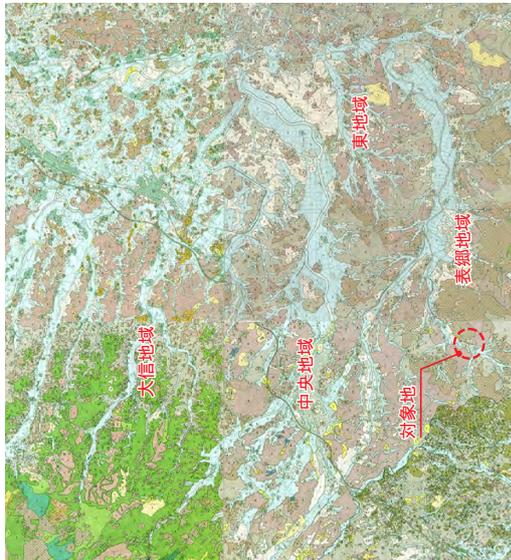
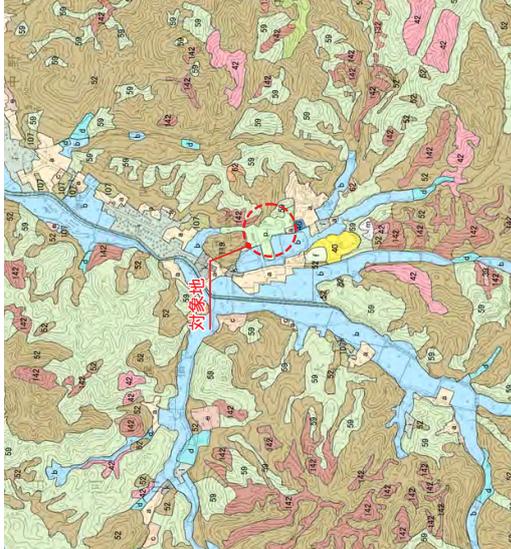
エコロジカルアスペクト(自然環境等)のサマリー

ゲオトープ 地学的視点		ビオトープ 生物学的視点	クリマトープ 気象学的視点
(標高・地形)	(土壌・地質)		
谷戸低地部の田園丘陵地の里山までの豊かな起伏を活かした事業が可能。	市街地との地質/土壌の違い、社川沿いの低地と山地の地質/土壌の違いなどを比較体験する、環境学習プログラムの提供が可能。	周辺植生を踏まえた、植栽計画とすることで、地域の自然体験の機会を設けることが可能。	気温、湿度共に年間を通して、過ごしやすい。
社川へと連続した谷戸地形は水や風の道、生物の動線となっており、それらを配慮した計画が求められる。	対象地周辺の斜面林は固結した堆積岩の層に位置するが、対象地自体は河川沿いの未固結堆(礫・砂・泥等)の層に位置する。建築物等を計画する際は、地盤調査の内容を確認すること。	高低差の地形によって、トーン状に変化する生育環境を活かした植栽計画により、地域の原風景の再生が可能。	夏は建築開口を南南西～北北東に設けることにより、風の流れを屋内に引き込むことが可能。
	敷地の土壌は灰色低地土で、土壌養分が豊富であることから、植物の生育に適している。	水田から里山まで暮らしに適した自然環境が整っている。	積雪が少ないことで、年間を通して安定した土地利用、移動環境が確保できる。
			冬は対象地の北西側に防風対策を施すことで寒さ対策が可能。

ゲオトープ 地学的視点-(土壌・地質)

<p>白河市の土壌</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 褐色森林土 面結岩層土 未熟黒ボク土 多量黒ボク土 非アロフェン類黒ボク土 アロフェン類黒ボク土 風化腐質赤黄色土 微細暗赤色土 暗赤色地土 停滞水グライ土 グライ低地土 灰色低地土 陸相未熟土 低位泥炭土 <p>出展：地図情報テクノロジ 国土情報プラットフォーム</p>	<p>市町村レベル</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 中生代 付加体 第四紀 堆積岩 第三紀 堆積岩 第四紀 火成岩 中生代 堆積岩 中生代 変成岩 中生代 堆積岩 中生代 変成岩 第三紀 火成岩 中生代 火成岩 中生代 火成岩 <p>出展：産業技術総合研究所 シームレス地質図</p>	<p>白河市の地質</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 中生代 付加体 第四紀 堆積岩 第三紀 堆積岩 第四紀 火成岩 中生代 堆積岩 中生代 変成岩 中生代 堆積岩 中生代 変成岩 第三紀 火成岩 中生代 火成岩 中生代 火成岩 <p>出展：産業技術総合研究所 シームレス地質図</p>	<p>対象地周辺の土壌</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> Hs-I：乾性褐色森林土 Hs-II：酸性褐色森林土 SI-I：乾性褐色森林土 SI-II：酸性褐色森林土 Ka：細粒灰色低地土 Da：多量黒ボク土 <p>主に河川周辺に分布する。土壌養分などは豊富であることが多い。</p> <p>出展：福島県 土地分類基本調査図</p>	<p>対象地周辺の地質</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> Gr：斑状黒雲母花崗岩 Ynz：砂岩、頁岩、チャート est：凝灰岩 D1：砂岩、砂岩 sgm：砂、礫、泥 sg：砂、礫 gr：礫、泥 gd1：礫、砂 <p>⇒中生代白亜紀の梁成層。海成層。 ⇒中生代ジュラ紀の半島結～扇層堆積物。海成層。 ⇒第三期前期中新世の火山噴出による扇層堆積物。 ⇒第四期更新世の那須火山群による火山性堆積物。 ⇒新世代第四期更新世の未固結堆積物。河川成層。</p> <p>出展：福島県 土地分類基本調査図</p>	<p>対象地周辺の地質</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> Gr：斑状黒雲母花崗岩 Ynz：砂岩、頁岩、チャート est：凝灰岩 D1：砂岩、砂岩 sgm：砂、礫、泥 sg：砂、礫 gr：礫、泥 gd1：礫、砂 <p>⇒中生代白亜紀の梁成層。海成層。 ⇒中生代ジュラ紀の半島結～扇層堆積物。海成層。 ⇒第三期前期中新世の火山噴出による扇層堆積物。 ⇒第四期更新世の那須火山群による火山性堆積物。 ⇒新世代第四期更新世の未固結堆積物。河川成層。</p> <p>出展：福島県 土地分類基本調査図</p>
<p>●対象地の土壌特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八溝山地の山麓に位置するため、市内平地部と異なり那須連峰の噴出の影響が少なく、周辺には褐色森林土が広く分布する。 	<p>●対象地の地質特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八溝山地の山麓に位置するため、市内平地部と異なり那須連峰の噴出の影響が少なく、周辺は非火山性の地質が広く分布する。 	<p>●白河市の地質、土壌特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平地部は、那須火山群が噴出した際の火砕流群に由来する未固結の火山碎屑物が広く覆う。土壌は黒ボク土が主。 ・八溝山地の北縁に位置する市南部は、砂岩、頁岩、凝灰岩、チャートなど中生代末期～中生代に海に堆積した泥や砂が固結した層によって構成され、土壌は褐色森林土が主。 ・阿武隈川とその支流沿いには河成段丘が発達し、河川堆積物が堆積する。土壌は灰色低地土が主。 <p>●まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地との地質/土壌の違い、社川沿いの低地と山地の地質/土壌の違いなどを比較体察する。環境学習プログラムの提供が可能。 ・対象地周辺の斜面林は固結した堆積岩の層に位置するが、対象地自体は河川沿いの未固結堆積物（礫・砂・泥等）の層に位置する。建築物等を計画する際は、地盤調査の内容を確認すること。 ・敷地の土壌は灰色低地土で、土壌養分が豊富であることから、植物の生育に適している。 			

バイオトープ-生物学的視点-

<p>都道府県レベル</p> <p>福島県の土地利用</p>  <p>出展：地図環境テクノロジー 国土情報プラットフォーム</p> <p>福島県の植生</p>  <p>出展：地図環境テクノロジー 国土情報プラットフォーム</p> <p>県の木</p>  <p>●福島県の植生</p> <ul style="list-style-type: none"> 福島県は常緑広葉樹林帯と落葉広葉樹林帯の境界部に位置する。 太平洋側の浜通りは常緑広葉樹林帯、日本海性気候の会津地方は落葉広葉樹林帯、白河市が位置する中通りは常緑広葉樹林帯に基本的に属する。ただし、垂直分布も加わるため、特に中通りは地域により明確な分類をすることが難しい。 	<p>市町村レベル</p> <p>白河市の植生図</p>  <p>出展：環境省自然環境局 全国植生調査データベース</p> <p>●白河市の植生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那須山麓の麓に位置する白河市は垂直分布（標高）の影響を受け、ため、地域で優占する植生が異なる ・白河市中心部、市域東側、対象地を含む表郷地域は、ヤブツバキクラスの植生が優占する。 ・市西北部の大信地域は、那須山麓の麓であり標高450m以上の山地によって構成されることから、ブナクラスの植生が優占する。 	<p>対象地周辺</p> <p>対象地周辺の植生図</p>  <p>出展：環境省自然環境局 全国植生調査データベース</p> <p>●対象地周辺の植生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の丘陵地はクリコナラ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、アカマツ群集等の二次林中心となっており、里山の植生となっている。 ・沖積層の低凹地（窪地）を構成する水田雑草群集は、もともとヨシ沼沢や低層湿原として発達していた所が開拓されている。
<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 田 その他農用地 森林 荒地 建物用地 幹線交通用地 その他用地 湖沼・河川地 海岸 海水域 ゴルフ場 <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> コケモトウレヒクラス域自然植生 コケモトウレヒクラス域代償植生 ブナクラス域自然植生 ブナクラス域代償植生 ヤブツバキクラス域自然植生 ヤブツバキクラス域代償植生 火山地帯植生 河辺/湿原/沼沢地植生 種林地 水田 畑 その他の特殊地帯植生 宅地 水面 <p>出展：環境省自然環境局 全国植生調査データベース</p>	<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 52 スギ・ヒノキ・サワラ植林 59 クリコナラ群集 107.クサギ・アケボノ・シワ群集 42 伐採跡地群集 62 竹林 40. ススキ群団 46. ヨシクラス 130. クリミズナラ群集 <p>出展：環境省自然環境局 全国植生調査データベース</p>	<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> b. 水田雑草群集 d. 放棄水田雑草群集 a. 刈草群集 i. 緑の多い住宅地 119. スギ巨木林 f. 隣傍・空地雑草群集 p. 残存・植栽地群をもつ公園・墓地等 m. 遺放地 <p>出展：環境省自然環境局 全国植生調査データベース</p>

クリマトープ-気象学的視点-

<h3>都道府県レベル</h3>	<h3>市町村レベル</h3>	<h3>対象地周辺</h3>																																																																	
<p>福島県の年平均気温</p> <p>出展：地図環境テクノロジー 国土情報プラットフォーム</p> <p>福島県の平均降水量</p> <p>出展：地図環境テクノロジー 国土情報プラットフォーム</p>	<p>白河市の月別平均気温</p> <p>出展：気象庁 過去の気象データ</p> <p>白河市の月別平均降水量</p> <p>出展：気象庁 過去の気象データ</p> <table border="1"> <caption>白河市の月別降雪、湿度</caption> <thead> <tr> <th>年月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>降雪量合計(cm)</td> <td>38</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>降雪量日合計数本(本)</td> <td>16</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>雪日数(日)</td> <td>22.7</td> <td>17.9</td> <td>14.2</td> <td>2.8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4.1</td> <td>15.9</td> </tr> <tr> <td>平均湿度(%)</td> <td>67</td> <td>64</td> <td>63</td> <td>64</td> <td>69</td> <td>78</td> <td>83</td> <td>82</td> <td>82</td> <td>78</td> <td>74</td> <td>70</td> </tr> </tbody> </table> <p>出展：気象庁 過去の気象データ</p>	年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	降雪量合計(cm)	38	25	14	2	0	0	0	0	0	0	1	12	降雪量日合計数本(本)	16	11	7	1	0	0	0	0	0	0	1	7	雪日数(日)	22.7	17.9	14.2	2.8	0	0	0	0	0	0	4.1	15.9	平均湿度(%)	67	64	63	64	69	78	83	82	82	78	74	70	<p>白河市の月別風配図</p> <p>出展：気象庁 過去の気象データ</p> <p>●対象地周辺の風環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏は南南西からの季節風が卓越する。風速は小さい。 冬～春は北西から「那須おろし」が卓越する。風速は大きい。
年月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																																							
降雪量合計(cm)	38	25	14	2	0	0	0	0	0	0	1	12																																																							
降雪量日合計数本(本)	16	11	7	1	0	0	0	0	0	0	1	7																																																							
雪日数(日)	22.7	17.9	14.2	2.8	0	0	0	0	0	0	4.1	15.9																																																							
平均湿度(%)	67	64	63	64	69	78	83	82	82	78	74	70																																																							
<p>●福島県の気象</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜通り、中通り、会津の3つの地域で気候は大きく異なる。 浜通りは海洋性気候のため、夏は海から涼風が吹き比較的過ごしやすい。冬は比較的温暖で降雪日は数えるほどしかない。 中通りの盆地の平担部は蒸し暑くなるが、山間部では暑くならない。冬は冷たく乾燥した風が吹く。 会津地方は降雪が多いのが特徴で、特に南西部の只見地方は豪雪地帯。盆地は中通りの平担部と同様に蒸し暑い。 <p>●まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温、湿度共に年間を通して、過ごしやすい。 積雪が少ないことで、年間を通して安定した土地利用、移動環境が確保できる。 	<p>●白河市の気象</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央高地式気候と太平洋側気候の両方の特徴を持つ。(年間の寒暖差が大きく、夏多雨多湿、冬少雨乾燥) 気温：気温の年間差は約20°C強。夏の平均気温は夏日まで届かず、盆地ではあるが過ごしやすい。標高が約海拔300mあるため、緯度の割合に気温が低く、仙台に近い。 降雨：那須連峰の影響を受け、夏の雨が周辺の他地域より多い。 湿度：夏の湿度が周辺の他地域より高く、仙台と同程度。 降雪：周辺の他地域より少なく、平地で積雪は殆ど確認されない。 <ul style="list-style-type: none"> 夏は建築開口を南南西～北北東に設けることにより、風の流れを屋内に引込むことが可能。 冬は対象地の北西側に防風対策を施すことで寒さ対策が可能。 	<p>●対象地周辺の風環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏は南南西からの季節風が卓越する。風速は小さい。 冬～春は北西から「那須おろし」が卓越する。風速は大きい。 																																																																	

(3) 教育環境

1) 白河市教育委員会重点施策

白河市第2次総合計画では将来都市像「みんなの力で未来をひらく歴史・文化のいきづくまち白河」の実現に向け、心豊かに学び・共にふれあい・生きる喜びを実感できるまちづくりを推進するため、白河市教育委員会重点施策を次のように定めている。

- ・ 生きる力と思いやりを育む教育の充実
- ・ 青少年の健全な育成
- ・ 生涯学習社会の実現
- ・ スポーツの振興
- ・ 人権尊重・男女共同参画社会の推進

2) 重点施策の視点と具体事業

上記のように白河市では、令和3年度版白河市の教育の中で、教育委員会重点施策を掲げており、以下では関の森公園の整備に関する事項のみを記述する。

<生きる力と思いやりを育む教育の充実>

- ① 豊かな心の育成
- ② 郷土の歴史教育の充実
- ③ 幼児教育の充実

<青少年の健全な育成>

- ① 家庭教育の充実
- ② 学校・地域・学校等との連携

<生涯学習社会の実現>

- ① 生涯学習推進体制の充実
 - I. 生涯学習活動とボランティアの育成・活用
 - II. 青少年の学校内外を通じた体験活動・ボランティア活動の推進
- ② 生涯学習機会の提供
 - I. ライフステージにおける学習機会の充実

これらの内容を踏まえ、関の森公園のリニューアルに伴いさまざまな教育環境が提供できるハード、ソフトの施策が求められている。

(4) 公園の社会背景と未来への展開

近年、持続可能な社会の実現が世界的な課題となっている。地球温暖化の深刻化は、世界各地の自然環境の悪化を加速させており、地域主体の持続可能な取り組みが急務となっている。そのような社会情勢の中、2011年3月11日、東日本大震災が発生し、東北地方・関東地方の沿岸部は、大津波によって甚大なる被害を受けるとともに、大震災によって生じた原発事故により、日本の経済社会を揺るがすような国家的な危機に陥ることになった。

大震災から約10年が経過する現在、東北地方の被災市町村では、新たなまちづくりの息吹が感じられる一方、大規模な自然災害も増加しており、2019年には、台風19号の直撃によって、関東甲信越、東北等の広範な地域に対して甚大な被害を与えることとなった。さらに、2020年には、「新型コロナウイルス感染症」が世界的に拡大し、地球規模の生活様式の変化に直面する時代が到来している。

このように、世界が大変革を遂げている今日、我々は、いかなる都市を創造し、自然といかに融合を図っていくべきなのか、都市の発展の歴史を振り返りながら、新たな視点を模索していく時がきている。都市の起源は、紀元前約7000年頃に、チグリス・ユーフラテス川流域のメソポタミアに形成された集落とされており、自然資源に立脚した共同体を起点に、世界的な発展を遂げていった。そして、こうした古代都市の時代から、今日の都市問題、環境問題の多くは存在していたといわれており、人間と自然の共生は人類永遠のテーマといえよう。



東日本大震災 押し寄せる津波
(内閣府 ホームページより)



台風19号による河川の氾濫
(日本気象協会 ホームページより)



古代都市・ローマ
(Bacon, E :Design of Cities、Penguin Books、1967)

「公園」は、人間が自然との接点を取り戻すために創設された「都市施設」であるとともに、地球環境の保全や人間性の回復、歴史や風土の保全を醸成するための重要な「自然環境」の意味も有している。「公園」の概念は、西洋では、イギリス市民社会の成立と共に形成されてきており、自然環境を享受する権利や散歩などの運動を行う「市民権」として定義されてきた。英国においては、国王の「狩猟園地 (Park)」を市民に開放したものが「公園 (Public park)」の始まりとされている。

一方、日本における「公園」の概念は、主に、明治時代に確立されており、神戸市の「外国人居留遊園 (1868 年)」や横浜市の「山手公園 (1870 年)」等は、主に、外国人居住者のための施設ではあったが、日本における公園の原型となっている。また、江戸時代には、仙台の「桜の馬場 (1695 年) 現在の榴岡公園)」が存在しており、見世物小屋や茶屋等が出店し、都市の憩いの場となっていた。

このように、「公園」は、人間が都市的な生活様式を選択するようになった現代において必要不可欠な空間であるとともに、地球環境問題の解決にもつながる貴重な自然環境としての役割も有している。

「公園 (Public park)」とは、本来、市民が憩いの場や遊びを楽しむために公開された「空間」として形成されてきたものであり、運営についても、公共性の高い団体や組織が主体となってきたが、近年、「公園」の有効活用方策の観点から、公園の民営化が推進されており、「大阪城公園」のように、市民や観光客が楽しむことのできる多目的な公園事業の導入等、公園の管理・運営に対する民間活力の導入が増加してきている。



外国人居留遊園(現:東遊園地)
(出典 神戸市 東遊園地 再整備基本構想案)



山手公園
(横浜市 ホームページより)



榴岡公園
(仙台市 ホームページより)



大阪城公園
(特別史跡 大阪城公園 ホームページより)

現在、「公園」は都市の公共施設的な位置付けから、地域の開かれた施設、様々な連携による複合施設への変革が進んでおり、緑地やオープンスペースが持つ多様な機能を、「生活の質：QOL (Quality of Life)」の実現や「持続可能な開発目標(SDGs：Sustainable Development Goals)」を達成させていくための「持続可能な都市空間」や「地域主体の個性ある交流空間」として高度化していくことが求められている。

これからの「公園」は、これまでの「公園」という機能を超えて、持続可能な未来を創造する「グローバル・コモンズデザイン」の視点に基づく、森の再生を通じた環境教育や自然エネルギーの創造、森林・里地の資源循環に基づくコミュニティビジネス、コミュニティデザインの実践の場となっていくことが求められる。

関の森公園についても、こうした社会の成熟化、市民の価値観の多様化、社会資本の効率的な整備といった視点を踏まえながら、「地域から愛される公園」、「世界とつながる公園」を地域や世界とともに創造していく必要がある。そして、そのためには、「地域との連携」「産官学民との連携」を促進しながら、公園の整備・更新についても、民間の資金やノウハウを活用し、収益事業や教育事業を含む多目的な機能複合を推進し、魅力のある地域のコモンズとしてデザインしていく必要がある。



持続可能な都市の創造の取り組み

(外務省 ホームページより)